日本英語教育史学会 会報
329
2025 年 10 月 15 日

HiSELT Society for Historical Studies of English Learning and Teaching in Japan
日本学術会議協力学術研究団体 日本英語教育史学会

発行人　日本英語教育史学会（代表：田邉祐司）
事務局　〒727-0023　広島県庄原市七塚町 5562
県立広島大学 庄原キャンパス 河村和也研究室
tel：0824-74-1727　fax：0824-74-0191
e-mail：membership@hiselt.org

会費納入口座（名義人：日本英語教育史学会）
ゆうちょ銀行【振替口座】00150-3-132873
ゆうちょ銀行〇一九店【当座口座】0132873

学会公式ウェブサイト https://hiselt.org/

第304回研究例会報告

2025（令和 7）年 9 月 20 日（土），第 304 回研究例会が Zoom を用いたオンラインの形態により開催されました。参加者は 29 名でした。

例会では「自著を語る」と「わたしのしごと」という 2 つの企画が行われました。最初の「自著を語る」では，指定討論者に柾木貴之氏（北海学園大学）を迎え，江利川春雄氏（和歌山大学名誉教授）が「英語受容の光と影～江利川春雄著『英語と明治維新：語学はいかに近代日本を創ったか』（ちくま新書，2025）を手がかりに～」というタイトルでお話しされました。2 つ目の「わたしのしごと」では，熊谷允岐氏（茨城大学）が「英単語集と私の交差点：挫折と展望の 10 年」というタイトルでお話しされました。司会は上野舞斗氏（四天王寺大学）でした。以下に参加者の感想を掲載しますので，ご参照ください（1 は江利川氏及び柾木氏，2 は熊谷氏の発表への感想です）。

＜発表 1 の感想＞

◆江戸時代のことを詳しくお話されていて面白かった。（岩橋一樹）

◆明治維新の志士の華々しい活躍の舞台裏で，絶大な役割を果たした陰の立役者が「英語」である。という文章に始まる『英語と明治維新』ですが，次々と出てくる「知らない話」に惹かれどんどん読み進めました。本日のご講演も英語と日本語の相乗効果の分析は明快で，最後は先生の教育への愛で締めくくられるとても素晴らしいものでした。（ニーナ）

◆最近，英語教育史に関心を抱きはじめたばかりで，まだまだ不勉強の身でございますが，このたびのご発表を拝聴し，現在の英語教育に至るまでの過程の一端を学ばせていただきました。今後とも研鑽を重ねてまいりたく存じます。（岡秀亮）

◆蘭学から英学へ移った福沢諭吉，仏学の中江兆民，日本語使用を廃止して英語だけにすることを提案した森有礼，ドイツ医学と西欧思想に詳しい森鴎外，百科事典派の西周と明治期には興味深い人物が輩出しました。江利川先生のお話を聞いて，多くのことを考えました。ありがとうございました。（匿名希望）

◆江利川先生のご発表，その後の質疑応答ともに大変勉強になりました。指定討論者の柾木さんもよく準備をされていて，そのおかげで議論が深まったと感じました。（匿名希望）

＜発表2の感想＞

◆英単語集を作るには，志望校に特化して作ることもあるようだが，覚える人の暗記作業の効率

性もかかわるのかなと思いました。（岩橋一樹）

◆熊谷先生の英単語集との関係がとてもよくわかるご発表でした。決定的な論文や人との出会いがあって研究は進歩していくものと改めて感じました。（ニーナ）

◆ご発表ありがとうございました。歴史的観点からの知見は，現代の英語教育だけでなく未来の英語教育を考えるために非常に重要な立ち位置にあると感じております。語彙という観点は学習指導要領でも幾度となく変化の波にさらされているため，常に注目を浴びております。また，(認知)心理学を背景とする研究が多い中で，効果的な語彙学習に重きが置かれる風潮があると感じており，語彙学習や教材のそもそものあり方に関する議論は欠けていると思います。もちろん効率的な学習もある側面では重要ですが，その歴史的な知見を合わせて，そのあり方を探求する必要性は高いと考えています。その中で，熊谷先生のご研究はその大きな一歩となると実感しております。まとまりのない感想となってしまい大変申し訳ございません。さらなるご発展を期待しております。（岡秀亮）

＜会全体に対する感想＞

◆熊谷先生，ご発表を控えておられたにもかかわらず，例会のお世話をしてくださりありがとうございました。（ニーナ）

◆指定討論者を設けるのは，とても良いと思いました。（匿名希望）

◆申込をしたのが前日であったにもかかわらず，当日にリンクをお送りいただき，参加することができました。また，会員外にも例会を公開していただけることもありがたく思います。運営の方々に深く感謝申し上げます。（匿名希望）

発表を終えて

江利川 春雄

拙著『英語と明治維新：語学はいかに近代日本を創ったか』（ちくま新書，2025）を例会で取り上げてくださり，誠にありがとうございました。指定討論者の柾木貴之先生には，本質的なご質問を切れ味鋭く提起いただき，心より御礼を申し上げます。

筑摩書房から「英語と明治維新」というタイトルで執筆するよう依頼され，あたかも日本史専攻の大学院に入り直したようなワクワクする日々でした。私は経済学部生だった 1980 年前後に，マルクス経済学の立場から日本資本主義発達史，とりわけ基点となった明治維新史の勉強をしました。しかし今回，執筆のために近年の明治維新史研究の文献を読み漁るなかで，研究水準が一変していることに驚嘆しました。そうした最新の研究成果を織り込み，「英語」を切り口に幕末・維新史を描いてみました。

痛感したのは，語学が世界と未来に目を開かせ，英語が人間と社会を変革する武器だということです。それは「何のために英語を学ぶのか」という根源を問うものです。さらに，英語を通じての西洋文化の移入には，文明開化（近代化）と脱亜入欧（帝国主義）という光と影があったことです。この両面性は，近年の「グローバル人材」育成策にも通底しているのではないでしょうか。発表後，多くの皆さまから質問や指摘を頂戴しました。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

指定討論を終えて

指定討論者　柾木 貴之

今回，江利川春雄先生の「自著を語る」に際し，指定討論者を務めました柾木です。私からは以

下の 5 点の質問をさせていただきました。

① 執筆をする上で特に参考になった幕末・明治維新関連の先行研究はどれになりますか？

② 題名にある「明治維新」について先生の認識・捉え方を伺いたいです。「明治維新」は「明治革命（revolution）」であると捉えたとき，どのようなことが見えてくるでしょうか？

③ 幕末・明治時代の洋書の輸入・販売状況はどうなっていたのでしょうか？ 一般国民が手に取ることはどの程度，可能だったのでしょうか。

④ 英語の受容が「国語及漢文」の学習にもたらした「影」はありますか？

⑤ 「国語」はどのような過程，速度で普及していったと考えますか？

指定討論は大変，勉強になるものでした。今回，指定討論者に指名してくださった江利川先生に心よりお礼申し上げます。「謹呈」と書かれたしおり付きのご著書は付箋でいっぱいになりましたが，未だに毎日持ち歩いています。また司会を務めてくださった上野舞斗先生に感謝いたします。先生のおかげで安心して指定討論に臨めました。そして例会担当の熊谷允岐先生，いつも例会の企画をありがとうございます。会の前後に励ましの言葉をかけてくださり，大変うれしく思いました。最後に，ご参加くださった皆様に感謝の気持ちを伝えまして，結びの言葉とさせていただきます。

発表を終えて

熊谷 允岐

第304回研究例会でも，大変お世話になりましたことを御礼申し上げます。今回の発表では，これまで10余年にわたり英単語集と向き合ってきた歩みを振り返り，「自分史」という形を通して整理し，報告を行いました。

発表準備を進める中で改めて実感したのは，分野を問わず学んできた経験は決して無駄ではなく，むしろ現在の研究を支える大きな原動力となっているということです。研究における一本の「芯」ともいうべき考え方や視点も，過去の活動の積み重ねを基盤として培われてきたものだと強く感じました。発表の中でも触れましたが，単語集の将来像は必ずしも確定的なものではなく，媒体の変化だけでなく，その存在意義や編纂目的といった根本的な点にも，時代に応じた変化が生じるものと考えています。したがって，これまでの10年を一つの踏み台としつつ，今後も単語集の変遷や展望を丁寧に追究し，同時に参考書史の学術的な価値をより一層広めることができれば幸いです。

最後になりますが，ご参加の皆様方より有意義なご質問，ご意見をいただきましたこと，重ねて御礼申し上げます。本発表での経験を踏まえ，今後も研究に励ませていただきます。

〉〉新入会員

◆ 山本 鈴（やまもと りん）　広島県　県立広島大学（学生）

◆ 岡 秀亮（おか ひであき）　茨城県　茨城大学

〉〉この先の研究例会・全国大会

◆ 第 305 回研究例会　2025 年 11 月 15 日（土）　広島〈サテライトキャンパスひろしま〉

◆ 第 306 回研究例会　2026 年 3 月 21 日（土）　オンライン開催

→日程や場所は変更される場合があります。その際は会報およびウェブサイトでお知らせします。

研究例会での発表希望者は，(1) 発表希望月，(2) タイトル，(3) 発表概要（100～200 字程度），(4) 使用予定機器，の 4 点を明記の上，発表希望月の 3 ヶ月前の 10 日（3 月発表希望であれば 12 月 10 日）までに日本英語教育史学会例会担当へお申し込みください。

Email: reikai@hiselt.org

日本英語教育史学会 第 305 回 研究例会

日　　時：　2025 年 11 月 15 日（土）14:00～17:00
　　サテライトキャンパスひろしま（504 中講義室）

研究発表　　**「明治期の分科の興りと変遷」**

山本 鈴（県立広島大学大学院〔院生〕）

【発表者から】明治期に行われた英語分科教育の始まりから衰退までを，様々な文献調査を基に概観し，「なぜ分科は始まったのか？」「なぜ分科は否定されたのか？」をリサーチクエスチョンとして分析を行う。また，現代英語教育（特に中学校）における，「文法と本文読解の融合」，「検定教科書の面白み」といった課題解決のヒントを，分科教育の歴史のレビューを通して探っていきたい。

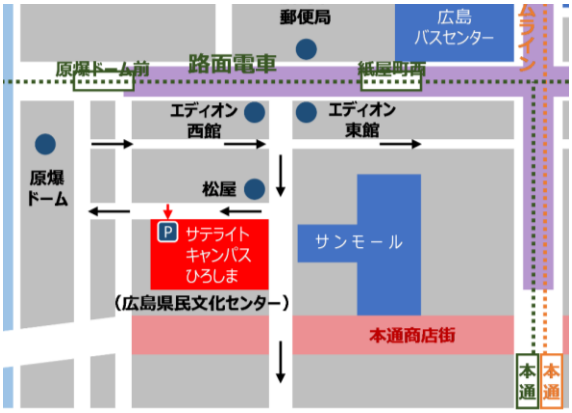
研究発表　　**「臨教卒業後の学歴による評価の差は存在したのか」**

鈴木 聡（鳥羽商船高等専門学校）

【発表者から】本研究は，臨時教員養成所（臨教）卒業後の学歴による評価差を検証したものである。従来，臨教卒は評価が低いとされ，卒業後に高師研究科や東京文理科大学への進学，高等教員検定合格を目指す者もいたが，それらの経歴はその後の教員人生にどのように影響したのだろうか。本研究では臨教卒業者 7 名を取り上げ，各自の経歴の調査・分析を行った。その結果，進学や資格取得の有無よりも，教員としての実績や最終所属機関が評価に大きく影響した可能性が明らかとなった。

参加費：　無料
問合せ：日本英語教育史学会例会担当
　　（reikai@hiselt.org）

【会場案内】
◆JR 広島駅から：路面電車で約 20 分，
　　バスで 15 分，車で 15 分
◇路面電車（広島電鉄）の場合
　広島港行[1]　「本通り」下車，徒歩約 5 分
　宮島行[2]，西広島行[2]，江波行[6]　「紙屋町西」下車，徒歩約 3 分　（「アクセスマップ」より）
◆広島バスセンターから：徒歩 3 分
◆広島空港から：リムジンバス（広島バスセンター行き）約 60 分



EDITOR'S BOX　朝晩に寒さが感じられるようになってきました。みなさまもご自愛下さい。（若）

© 日本英語教育史学会会報編集部（秋田大学 若有研究室 newsletter@hiselt.org）